



岡山県原水協通信

2011年5月9日 No164
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島田町4-25
TEL086-244-4526 (F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

5月
6・9行動

原発事故「政府はもっと丁寧な対応を」物理学の専門家と対話

岡山県原水協と岡山市原水協は5月6日、岡山駅前で定例の6・9行動を行いました。

この日の行動には、県労会議、医労連、自治労連、高教組、生協労組、平和委員会、県人権連、共産党の8団体から13人が参加し、市民に訴えました。

平井事務局長は「広島・長崎の惨禍から66回目の夏がきます。今日、東京夢の島を平和行進が広島に向け出発しました。大震災や福島原発事故の被災者への救援と連帯、自然エネルギーへの転換などを訴え8月の広島・長崎にむけ歩き続けます。昨年のNPT再検討会議の成果を活かす『核兵器全面禁止のアピール』署名にご協力を」と訴えました。

自分は物理学会の会員だという方が「私達がいくら危険だといっても政府は聞く耳を持たなかった。もっと丁寧な対応が必要ではなかったか」と話していました。34筆の署名と100円の募金が寄せられました。



赤磐 原水協

足王様足神春の大祭で宣伝署名行動



赤磐原水協は4月29日恒例の足王様（足王神社春の大祭）で、「核兵器全面禁止のアピール」署名に取り組みました。足の神様として有名なところなので、岡山県内だけでなく遠くからの参拝者もあり「これはせんといかんぜよ」と、高知からの参拝者が署名に応じてくれたのが印象的でした。毎年ですが小学生、中学生そして高校生がすすんで署名してくれるのも嬉しいことで励まされました。この日は赤磐平和委員会、原水協共同で9人が参加、1時間余の行動でしたが150枚のチラシを配布し、157筆の署名が寄せられました。

赤磐原水協はこの日を皮切りに平和行進と夏の大会に向け取り組み開始です。今年は市の協力で「原爆展」を開く予定です。（赤磐原水協・水田事務局長）

「今もガラス片が顔に」

PPOが3回目の被爆証言を聞く会

PPO（peace piece okayama）は4月29日、第3回目の被爆証言聞く会を行いました。

この日お聞きしたのは小野田久子さんです。

小野田さんは17歳のとき自宅で被爆しました。体調が悪く家おり、空襲警報が解除され窓を開けようとしたその瞬間に原爆が炸裂。爆心地から2Kmでした。

身体中に窓ガラスの破片が突き刺さり「今でもこの顔の左のこめかみの下に破片が残っているの」と話されます。そして「戦争だけは絶対にしてはいけない」と強く訴えられました。

この日証言を聞く会に参加した青年は7名で、参加し



小野田久子さん(右から2人目)の証言を聞きました。

た西本くんは「毎回思うのですが被爆者の方の話は1人ひとり違って、聞く度に新しい発見があるなと思いました。最初の詩がとて心に残りました。『あの日を忘れない』『父の命を引き継いだ』というところが小野田さんの悲しみと強さが現れているとおもいます」と感想を述べています。